

VOICE of member 会員の声

旧トラック島 住民集団検診など

広島市中区大手町 広島パークビル内科

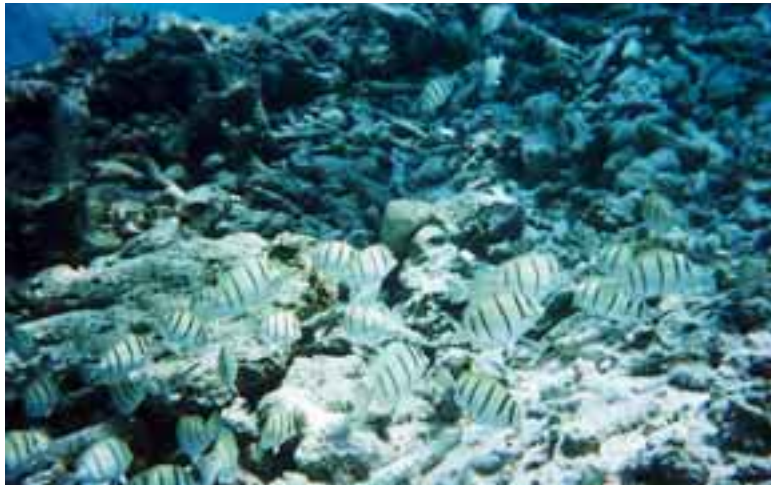
伊藤 剛 二

若き命をお国のために捧げることはいとわな
いとの軍人魂を植えつけられたものです。

昭和17年9月繰り上げ卒業で10月から築地海
軍々医学校(現国立がんセンター)に入学。直
ちに北朝鮮元山海軍航空隊で基礎訓練を受け、
1月築地に帰り戦陣医学を教わり、3月卒業と
同時に実戦部隊に配置されました。誰言つとな
く消耗品組だと。

南太平洋方面海軍艦隊本部がトラック島夏島に
あり、停泊中の航空母艦飛鷹の勤務を命ぜられ、
着任と共に夏島の南にある竹島飛行場で零式戦斗
機の着艦訓練に8月迄約4ヶ月間従事しました。
その間夏島の日本移民一世による手厚い慰問を受
けました。8月アッツ島奪還作戦で全艦隊が横須
賀港に集結。その時、山本五十六司令長官の戦死

により、急遽作戦中止、再びトラック島に帰港と
なり、三宅島沖にて敵潜水艦につかまり、右舷に
三発魚雷をくらひ、命あつて零戦部隊と共に築城
海軍航空隊に移動勤務となりました。



トラック島の熱帯魚群

終戦後より60年間、島での厚遇が胸につかえ
ており、どうかして恩返しをしたいと今日ま
でになりやっと環境がととのい、今のうちにと

決心しロータリーの奉仕活動をこの島で実践す
ることとなりました。

まず今年1月6日から9日まで住民集団検診
と医学講演を行う計画の打合せに行き、今回3
月3日から8日まで、まず現地医師免許証の交
付を受け、住民集団検診、朝食抜きの150名を午
前中にしました。内容は高血圧・高脂血症・心
臓病・糖尿病・肝疾患で検尿・採血をし、好評
のミニ4色ボールペンをプレゼントして終り、
血清分離して冷凍保存して持ち帰り、広大医学
部第一内科で血液分析していただきました。そ
して午後、医学講演を「食生活と健康」と題し
てしました。製薬会社2社から食生活指導パン
フレットを1,000部寄贈していただいたも
のを配布し、調理場の壁に貼って食べてよい品
悪い品とを選別して調理すること。特に終戦後
欧米食化して殆どの島民は肥満体となり、それ
が美男女の通念となつていきます。昔のタロイ
モ食に戻すこと、意識改革が大変です。
それと、毎日促歩又はジョギング運動をする
ことを奨励しました。

州知事様との懇談をし、年間欧米食品の輸入
量の統計表を作つていただき、その量の推移と
健康改善度との比較を5年、10年と追跡調査を

することを申し合わせしました。

トラック島は昔、少年倶楽部に連載された冒険ダン吉モデルの主人公高知県出身の森小弁氏の島です。午後の暇を観光に当てました。何とんでも紺碧の海、珊瑚の白浜、すき透つた海底、何よりも美味な果物、赤道の南とはいえ乾いた暑さ、マリアアはいません。ホテルの水道水も飲めます。昭和19年2月17日18日、2日間米軍機による爆撃で集結していた軍艦・潜水艦・輸送船・タンカーなど70隻余、零戦・一式陸攻・二式大艇など20機余が海底に沈んでいます。英霊は既に引揚げられています。積荷はそのまま、色とりどりの熱帯魚が群がり、「地獄に最も近い海」そのものです。現在州政府は「海中戦跡博物館」として厳重管理をしています。

世界随一のダイビングポイントと自負しております。このチューク州はアメリカ冷戦時代より軍用基地として使用していましたが、ミクロネシア連邦が1986年に独立しましたが、引き続き基地使用の見返り条件として15年間財政補助をしてきました。その補助が2年前で期限切れとなり、ただ今財政は疲弊しゆい一の州立病院は最低級そのもので、耳鼻咽喉科・眼科はありません。今回、耳鼻咽喉科 宮脇勝二先生の

ご同行で心強い思いをしました。

旧トラック島(現チューク州)は赤道より少し南です。福岡空港から11時30分発グアム空港着16時10分、時差1時間進めます。グアム発19時40分トラック着21時30分、約1時間50分です。次いでポンペイ、ホノルルへ向い、引返してグアムに帰着の離日便です。3月末頃より8月一杯頃が一番気候がよろしいそうです。1月に行った時は向うは夏で、スコールがくれば1日中雨に見舞われました。

チューク州は東京山手線の約5倍もの大きな珊瑚礁にかこまれ、春島・夏島・秋島・冬島・日・月・火・水・木・金・土島・そして無人島をふくめて約200余りの島からなり、世にまだ知られざる素晴らしい未開の島です。

カトリック教会が随分とあります。持参した広島平和公園の千羽折鶴を供え世界平和を祈願しました。
南十字星を眺めサラバ トラックよ またくる日まで!!

ただ今、「旧トラック島油彩展」を広島銀行皆実町支店で行っています。お通りがかりの節はお立ち寄りいただきご覧してください。

学術講演会掲載規定

1 原稿宛先

〒733・8540

広島市西区観音本町一丁目1番1号

広島県医師会広報情報課宛

TEL 082・293・3363

Fax 082・293・3363

E-mail kouhou@hiroshimamed.or.jp.

電話での掲載は不可。

2 掲載回数 3回以内。(県医師会速報は5日15日、25日の発行、掲載希望発行日の8日前までに原稿必着のこと。)

3 掲載原稿 なるべくmagaにて送付のこと。日付・時間等は英数字で記入のこと。また日医生涯教育講座の申請書を提出し、速報にも掲載希望の向きは、別に速報用の原稿を提出のこと。

4 掲載内容

(1) とき・ところ・演題と講師(テーマ)・連絡先・主催等、(日時・場所とは記載しないこと。県医師会速報を参照されたい。)
(2) 座長、司会(シンポジウムを除く)、世話人名等は省かせて頂く。

(3) シンポジウムはテーマのみ掲載、一般演題のテーマ・演者名は掲載しない。

(4) 県医師会主催・全国学会等についてはこの規定は適用しない。なお、掲載希望原稿の内容によっては広報・情報委員会にて協議のうえ、文言の修正、掲載をお断りすることもある。

5 掲載料 無料。ただし、薬品会社名、薬品名等(講演会タイトル、主催者名、後援名にかかわらず)が記載してあるものは、一回につき、5,000円の掲載料を請求する。

広島県医師会広報・情報委員会